

無量壽

平成23年1月1日
浄土真宗 本願寺派
林徳寺 発行
025 - 276 - 3456

浄土真宗物語⑮

本願寺は、前回の「浄土真宗物語⑭」に書きま
した第四代の善如上人から、その子ども第五代
綽如上人へと受け継がれていきました。

この頃は南北朝時代で、足利尊氏を初代とする室
町幕府の北朝と、楠木正成で知られる後醍醐天皇
側の南朝が激しい戦を続けていました。

そのため京都の町は、たびたび戦火で大きな被害
を受けていたようです。そういう中で本願寺を護つ
ていくことは大変な苦勞があつたことだと思われ
ます。しかも、これも前回の文に書きましたが、当
時の本願寺は収入の道が殆ど無かつたのですから、
その苦勞は想像を超えたものだったと思われま
す。そのような時代においても歴代の上人は、親鸞聖
人の教えを受け継ぎ、後の世に伝え残す努力をして
くださいました。

当時、明から届いた難解な国書を、綽如上人
が読み解き、それを喜んだ後小松天皇から新た
に寺を建てる許可をいただいたという伝説があ
ります。この時に建てられたのが、富山県南砺市
井波にある瑞泉寺というお寺です。

井波彫刻で飾られていることで知られている
大きなお寺ですが、先ほどの伝説はともかく、
この瑞泉寺を足がかりに北陸地方への布教に努
められました。

親鸞聖人の時代に聖人を支えた関東の門徒は、
歴代上人は学問に励み、その事が広く知られて
いたということでしょう。

争いから、本願寺
から離れてしまつ
ていました。

その後の本願寺
を支える中心は、
この頃から北陸の
門徒に移っていっ
たのです。

このことが此の
後の日本の歴史に
も大きく関わって
きます。 続く



瑞泉寺 寺号碑



井波彫刻で飾られた瑞泉寺山門

親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け法要 特集

来年(平成23年)は、親鸞聖人の750回大遠忌の年に当たります。それに先立ち、各寺院や組では「お待ち受け法要」をおつとめ致します。林徳寺と新潟組での法要についてご紹介致します。

①林徳寺のお待ち受け法要

期日：平成22年11月26日(金)

場所：林徳寺本堂

定員：通常の報恩講法要を兼ねていますので、そのおつもりでご自由にお参りください。

内容：10:00～ 法話

講師：藤井 哲雄師(長岡市、西福寺住職)…林徳寺住職の弟です。

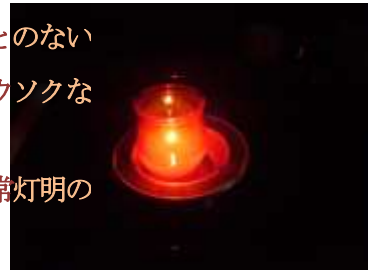
11:30～ 法要

内容：宗祖讚仰作法…750回大遠忌のために作られた特別なおつとめです。

12:30～ お齋

西本願寺には、建立以来一度も消えたことのない「常灯明」があります。これが本願寺でロウソクなどに点火する元になる灯火です。

林徳寺では、今回この法要のために、この常灯明の火を分けていただきました。



②新潟組のお待ち受け法要

期日：平成23年3月5日(土)

場所：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 5F 能楽堂

定員：320名(入場無料)

内容：13:30～ 法要(宗祖讚仰作法)

14:30～ 公演

内容：独り芝居「恵信尼さま」

出演：城谷小夜子(元前進座の女優で、

現在はNPO法人「和の輪」代表)



恵信尼さまにふんじた
城谷小夜子さん

※多くの皆様の参拝を、お待ちしております。

日本語になった仏教の言葉 ⑱

《出世》
仏が衆生をすくうためにこの世に生まれ出ること、また、俗世界から離れて煩惱をたち、悟りを開くことを「出世間」といい、ここから僧を出世者ともいいます。

日本ではとくに、公家などの子弟が出家したものをさし、僧の世界で彼らの昇進が早いために、現在の「社会的な地位が上がる」ことの意味に使われるようになりました。

昔はいわゆる出世を目指して頑張ることが、人生の第一目標とされていたように思いますが、近年はちよつと違ってきたようです。

育児を楽しんで行く男性「イクメン」が、高く評価されてもいます。社会的地位の向上よりも家庭を大切にという考え方が、認められてきたということでしょうか。

今後の社会の変化が楽しみでもあります。